

商店街名：末広町商店街振興組合（瀬戸市）

キャッチコピー

あなたのハレが街をつくる、私らしくが見つかる商店街

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2030年度頃）

瀬戸市は2030年に65歳以上人口が総人口の32%前後を占める一方、30代を中心とした子育て世代の定住地としても注目を集めている。商店街では店主や組合役員の高齢化がさらに進み、イベント運営等の担い手不足に加え、次世代への円滑な世代交代と新規出店を促すインフラづくりの重要性が増している。



◇商店街の姿

車で30分圏内の子育て世代や地域住民を主要ターゲットとする。全蓋式アーケードを活かし、日々の買い物（ケ）とマルシェ等の体験（ハレ）が融合した多世代交流の拠点となる。また、「小さなチャレンジ」を応援する土壌により、若者や新たな挑戦者の出店を促し、持続可能な商店街の基盤を固める。

◇地域の状況（2035年度頃以降）

2035年に向けて市内の高齢化はさらに進行し、高齢者の「買い物難民」の増加やコミュニティ機能の維持が深刻な社会課題となる。一方で、移住・開業希望者のニーズも継続して顕在化しており、地域住民の生活支援と、多様な新たな担い手の受け皿づくりの両立が求められる。



◇商店街の姿

買い物難民となる地域の高齢者を支えるため、野菜などを販売する「朝市」を定期開催し、日常的な買い物支援と見守り・交流の場を提供する。また、マルシェを起点とした出店支援の仕組みが成熟し、若者やアーティストが次々と集い活力を生み出す新陳代謝のエコシステムが完成した商店街を目指す。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス） 【構想計画期間：2026年度～2030年度】

「あなたと一緒に、これからの商店街をつくる」というコンセプトのもと、多様な主体との共創で以下のプロセスを進める。

- ① 「小さなチャレンジ」から始まる新陳代謝のエコシステム構築
マルシェを「小さくチャレンジできる場」として継続し、出店希望者を育成・支援する。
- ② プラットフォームを活用したリサーチと日常・非日常の融合
大学や町内会等が参画する「これカラボ」で地域のニーズを抽出する。買い物難民を支える「朝市」や「こども商店街」等の体験型イベントを展開し、日常（ケ）と非日常（ハレ）が融合した多世代交流のコミュニティを形成する。
- ③ アートを核とした滞在拠点化とファン拡大 芸術祭連携で培った人脈を活かし「瀬戸独自の芸術祭」を展開し、来街者の滞在時間を延ばす。

◎実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：地域の多様な主体の関係者を含む計5名

(2) 地域プラットフォーム

名称：せと末広町商店街これカラボ

目的：商店街の歴史や慣習、地域住民の課題のヒアリングを行い、多世代が連携して末広町商店街の将来ビジョンの実現を目指す。

参画：商店主、市町村、地域住民、学校

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

地域プラットフォーム「これカラボ」での意見交換や商店街理事会を通じ、以下のニーズを把握している。

- ① 日常の買い物支援とコミュニティ（居場所）のニーズ
高齢化の進行に伴い、徒歩圏内で生鮮食品等を買える場（買い物難民支援）の必要性が高まっている。また、近隣に飲食店や休憩スペースが少ないため、全蓋式アーケードを活かして天候に左右されず、多世代が気兼ねなく集い、交流や飲食ができる「日常の居場所」が求められている。
- ② 多世代がワクワクできる体験と文化芸術のニーズ
子供が主体となる「こども商店街」や、親世代も熱中できる「レトロゲーム祭」など、単なる買い物にとどまらない体験型企画への要望が強くある。さらに、国際芸術祭の開催を機に、地域で日常的にアートや文化に触れ、長く滞在できる環境への期待も高まっている。
- ③ 新規出店のための「活用できる空き家」のニーズ
マルシェの開催等により、市内外からの移住・開業希望者は多数顕在化している。しかし、所有者の現状維持志向により「修繕なしですぐに貸してもらえる物件」が市場に出回っておらず、挑戦の受け皿となる「空き家」の流通・マッチングに対する強いニーズ（需給ミスマッチの解消）が存在する。

◎将来ビジョンの具現化や地域ニーズの対応のために行う地域貢献活動の内容

商業者と多様な主体が「これカラボ」を起点に連携し、単なるイベントにとどまらない以下の地域貢献活動を推進する。

- ① 地域と連携した高齢者支援と居場所づくり（コミュニティへの貢献）
地元の農家や地域住民と連携し「朝市」を定期開催。高齢者の買い物難民支援や見守りを担う。また、「こども商店街」等を地域と共創し、多世代が安心・安全に交流できる「日常の居場所」を提供する。
- ② 行政・クリエイターと連携した次世代の挑戦支援（地域経済・活力への貢献）
瀬戸市や地元クリエイター等と連携し、マルシェを「小さくチャレンジできる場」として提供する。テストマーケティングから実店舗開業へのステップアップを仕組み化し、次世代の育成と持続可能な街の新陳代謝に貢献する。
- ③ 地元アーティスト・学校等と連携した文化芸術・教育への貢献（文化・教育への貢献）
地元アーティストや美術教員等と連携し、「瀬戸独自の芸術祭」やワークショップを開催する。子供たちや地域住民が主体的に制作を体験できる場を創出し、創造力を育む教育的支援と「アートと文化の街」としての価値向上に貢献する。